

式 辞

桜のつぼみも膨らみ始め、吹く風にも春の訪れを感じる今日のよき日、宇治田原町長勝谷聡一様を始め、多くの御来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席のもと、令和六年度維孝館学園宇治田原町立維孝館中学校卒業証書授与式を挙行できますことに、高壇からではございますが、厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、六十七名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、皆さんが手にした卒業証書は、中学校の全教育課程そして義務教育9年間の全課程を修了した証です。その卒業証書を受け取る姿は大変凛々しく立派でした。

皆さんは、七十八年の歴史と伝統がある本校で、地域の方々に温かく見守られながら、今日まで、仲間と共に多くのことを学び、豊かな心と体を育んできました。

入学当初から2年の5月までは、コロナ禍により、学校生活の制限や行事の縮減を強いられる生活でしたが、その間も皆さんは、仲間を思いやり、助け合って学校生活を送ってきました。

2年の2学期からは制限も少なくなり、徐々にコロナ禍前の学校生活に戻ってきました。そうした中で、今年度、3年になり、みなさんの素晴らしい力が様々な場面で発揮されました。

修学旅行の八方尾根登山では、みんなで励まし合い、全員が目的地に到達しました。立山黒部アルペンルートでは、他のお客さんにそっと席を譲る、優しさや思いやりがあふれた行動がたくさんみられ、スローガンの「楽学両道」を実現させました。

文化発表会での、学年合唱や合唱コンクールでは、思いを一つにした美しいハーモニーがホールに響き渡りました。

体育大会では、みんなで意見を出し合い工夫や改善を重ねて創り上げたブロック演技、そして演技後の達成感いっぱいの笑顔（スマイル）がとても印象的でした。

また、毎日の授業でも自分の考えやそう考えた理由について、お互いにしっかりと伝え合っていたことが素晴らしかったです。

最高学年の3年として、今まで培ってきた力を基に努力を積み重ね、リーダーシップを発揮し、全校生徒を導いてくれたことに感謝しています。

さあ、四月からは、皆さん一人一人が新しいステージに立ちます。

室町時代に能楽を大成した、世阿弥さんの有名な言葉に「初心忘るべからず」という言葉があります。「何事においても、始めた頃の真剣な気持ちを持ち続け、自分を向上させていかないといけない。」という意味ですが、この言葉にはあと二つの意味が込められています。

その一つが「その年齢にふさわしい知識や技能を身につけるためには、常に自分を初心者だと思い、努力を続けていかなければならない」という意味、もう一つが、「できたからもういい、完成したと思わず、いつも初めてのことに挑戦する気持ちを持ち続けないといけない」という意味だそうです。

みなさんも、準備を整え、これからの新しいステージや今後の人生で常に「初心」を忘れず、全力で努力や挑戦をし続ける人になって欲しいと願っています。

最後に皆さんに私の好きな詩人相田みつをさんの言葉を贈ります。

『自分が自分にならないで だれが自分になる』、誰かに憧れ 誰かを目指すことは、

もちろん大切なことですが、その人自身になることはできません。しかし、どんな人にも決してあなたの代わりはつとまりません。

みなさん一人一人が持っている自分の魅力や個性を最大限に生かして、自分の良さを見失わず最高のあなたになってください。ここにいる一人一人が、大切な命を与えてもらい、すばらしい力と優しい心を持った、かけがえのない人達です。

どうか皆さん、自分を大切に、休憩が必要だと感じれば時には立ち止まり、助けが必要と感じれば、遠慮なく助けを求めながら、一步一步自分のペースで着実に進んで行ってください。

自分を大切にできる人は、きっと他の人のことも同じように思いやり、大切にできると思います。これまでに学んだこと、身に付けた力に自信と誇りを持ち、自分を大切に、皆さん一人一人が豊かで笑顔（スマイル）いっぱいの幸せな人生を歩んで行ってほしいと心から願っています。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。3年間、学校への多大なるご支援とご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。また、今日まで、陰になり日なたになりお子様を支えてこられたご苦労に敬意を表します。

中学校卒業後の新しいステージでも、お子様の頑張る姿を温かく見守り、勇気づけ、成長を後押ししていただきますよう、お願い申し上げます。

結びに、本日、栄えある維孝館中学校の卒業生となった六十七名の皆さんの今後の活躍と、この先の人生が笑顔（スマイル）に包まれた幸せなものになることを祈念して、式辞といたします。

令和7年3月14日

維孝館学園宇治田原町立維孝館中学校 校長 細矢 和彦